

平成24年9月19日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日時	平成24年9月19日(水) 午後2時00分
場所	教育委員会室
開会	午後2時00分
閉会	午後3時15分
出席委員	
委員 長	横井利男
委員	高木新太郎
委員	鈴木みゆき
委員	雁部隆治
教育長	横山信雄
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	小暮真人
庶務課長	岩佐一郎
学務課長	齋藤好正
指導室長	橋爪昭男
すみだ教育研究所長	渡部和美
生涯学習課長	金子しのぶ
スポーツ振興課長	中山賢治
あずま図書館長	村田里美

2 会議の概要

- **横井委員長** それでは教育委員会を始めたいと思います。本日の会議録署名人は鈴木委員にお願いいたします。

報告事項第1

資料1「教育委員会の点検・評価結果報告」について、を庶務課長が説明する。

- **横井委員長** 何かご質問はございませんか。
- **高木委員** 全体的なことでは、第三者評価委員の佐藤委員が指摘している成果と課題の欄の書き方ですが、実施状況と成果と課題また24年度の取り組みが、うまく連携がとれているかどうかの指

摘ですね。確かに連携が取りやすいものと取りにくいものがある。学校のICT化事業は抽象的に書いてありますが、学校と図書館の連携強化の記載については、数値化され非常にわかりやすく書いてあります。こういう形にしていこうということなんですね。もうひとつ、教員研修の実施については、実施状況、成果と課題及び24年度の取り組みが、連携を取る形の書き方が難しいと思います。ここで問題なのが、先生が担当する事務的な業務が多く、生徒と向き合えないなど本音の記載がでてこない。この問題はメインなので、どこかに記載をしたほうがいいのかと思います。2ページの学習状況調査の取り組みでは、これでいいのですが、もう一步進むと分析的に取り組む言葉が入ると今後、よりわかりやすくなると思います。

- **横井委員長** 他に何かご質問はございませんか。なければ、個別に順番に見ていきたいと思います。これは、教育委員会の点検・評価委員会の最終決定の文書ですね。私たちの意見は、今後に生かしていただけたらということですね、他にご意見があればお願いします。施策1「地域から信頼される学校づくり」の目標1「一人ひとりの子どもに応じた指導により、確かな学力と豊かな人間性を育てます」では何かご意見ありますか。
- **高木委員** PISA型学力では、国際的にも重視されていますが、あまり関連性がわかりにくいという印象です。
- **横井委員長** すみだ教育研究所がわくわく読解ブックをメインにして学力向上をめざしていることは良いことだと思います。具体的な部分での読解力が必要になってくると思います。PISA型学力の問題でデータを読み取る問題が出てきた場合、データを関連付けて見ることが難しいお子さんが多いと思います。例えば、学力向上のためのわくわく読解ブックで学力のスキルを身につける。具体的な学習では、総合的な学習の時間を使って自分が興味を持った問題についてデータを読み解いていくという機会をたくさん取る必要があると思います。平成12年度に教育課程が変わりましたが、その前後あたりでは、各学校では総合的な学習の時間の研究を深めたと思います。今でも文部科学省では、総合的な学習の時間を大切に行こうと方針は続いています。ハウトゥとしての読解力から、具体的な問題場面で応用できるような学力が必要です。そのためには、指導室が各学校に指導していることだと思いますので、今後このことを深めて行ってほしいと思います。これは重要なことですので、指導室と教育研究所がうまく連携をとりながら、取り組んでほしいと思います。
- **高木委員** 日本全体が今PISA型学力を注目しています。今のお話はとても重要ですね。
- **鈴木委員** PISA型学力というのは、理科で習ったことと社会で習ったことをうまく知識を統合して、自分で語れることだと思います。教科間の連携が必要かと思います。
- **横井委員長** 他の項目では何かご意見はありますか。
- **高木委員** 体力向上プロジェクトも数値化しやすいですね。佐藤委員が言っているように数値化したほうがいいですね。墨田区の体力の状況は全国平均に比べ低いと書いてあるので、数値化したら、もう少しわかりやすくなると思います。24年度以降の取り組みについては、詳しく書いてあるのでいいことだと思います。
- **横井委員長** 他にご意見がなければ、目標2「地域の特色に合った魅力ある区立学校づくりを進めます」では、何かご意見はありますか。
- **横井委員長** 「日本語指導の充実」について、例えば、外国から来た子ども達が多い学校を重点化し、インターナショナルスクール的な位置づけにし、ネイティブの人や通訳の人を配置し、そこを

拠点校として児童・生徒を集めることは、義務教育からすると難しいですか。

- **教育長** 実態としては、地域的に錦糸小学校に集まっています。錦糸小学校では国際交流的な催しを開催し取り組んでいます。
- **横井委員長** それを、「地域の特色に合った魅力ある区立学校づくり」とするために、インターナショナルスクールを設置し、外国語に関心のあるお子さんたちがそこに行くというような建設的な良い方向にもっていったらいいですね。
- **高木委員** 錦糸小学校の現在の取り組みをここに記載するといいですね。
- **横井委員長** 小さいうちから外国語に親しみたいというお子さんたちが行くことが考えられるかもしれません。
- **雁部委員** 地域のイベントで交流して、外国の人たちが自然にそこにいる状態にすることが、日本の子ども達にとってもあたりまえになってきます。このような機会を増やすことが必要なことだと思います。
- **教育長** 錦糸小学校は周りの地域の人たちもそのような理解で支援をしてくれています。
- **雁部委員** 「日本語指導の充実」の24年度以降の取り組みでは、「指導体制等の見直し」を具体的に書いていただけるとわかりやすいと思いました。
- **横井委員長** 「学校支援ネットワーク事業の実施」では、各学校に講師の派遣を行い良いことだと思います。地域の方たちが学校を支援するということでは、不登校のお子さんたちが学校の勉強が苦手だから行かない、ただ引きこもって家にいるのではなく、地域でなんらかの活動をするほうが、何もしないよりはいいと思います。このような学校支援があってもいいかと思います。以前ニュースになりましたが、不登校のお子さんが地域の工場で働き、亡くなったということがありました。そのときに、学校か教育委員会が認めたかとの話題になりましたが、引きこもっているよりは、学校か教育委員会が認めれば、働くことも止むを得ないかとも思います。お給料をもらっていたかどうかの別の話題になってしまいましたが、働いていればお給料をもらっていてもいいかと思います。そのような、不登校や引きこもりのお子さんを学校だけではカバーしきれないことを地域が支援するというのも支援ネットワークになるかと思います。
- **横井委員長** 目標3「よりよい教育活動を推進していくためのしくみづくりに取り組みます」では、何かご意見はございませんか。
- **高木委員** 「幼小中一貫」だと、保が抜けてしまいます。これで良いのかどうかです。
- **鈴木委員** 墨田区では、保育園とスタートブックなどで、連携をとっていますので、今後は、「幼小中一貫教育の推進」に保育園も入れたらいかがでしょうか。
- **教育長** 今後の課題として検討します。
- **高木委員** 「いじめ」の問題では、教育委員会がどのように考えているかが、問われます。例えば、いじめは存在しないものか、存在するけれどなくすように努力をするのか、教育委員会としての姿勢が問われます。この文章からだとわかりにくい。
- **横井委員長** 学校サポートチームというのは、現実に活動しているのですか。
- **指導室長** かなり生徒が荒れた場合には、学校サポートチームを召集して、協議します。学校運営協議会と兼ねている方も居ます。
- **横井委員長** 学校サポートチームというのは、必置ですか。
- **指導室長** 設置するように求められています。

- **横井委員長** 学校や教育委員会がいじめを認識していたかは非常に難しい問題です。ニュースを見ていましたら、保護者がどこかの探偵社に、いじめの調査を依頼したら、実態はゼロだったと報道されていました。いじめの認識は、そういう意味でも難しいと思います。
- **鈴木委員** アンケート調査を何度もやっているうちに、生徒がその調査の項目を見て、いじめをそこまでやっていいのかと勘違いしてしまうケースがあると聞いたので、アンケート調査をどこまでやるのか、難しい問題です。実際それをどのように使うのか難しいですね。
- **指導室長** 月1回ということもあるようですが、マンネリ化しても困ります。アンケート調査を取ったあとに、何もしないと、児童・生徒は書いても無駄とってしまいます。アンケート調査を取ったあとに、きちんとした取り組みが必要です。
- **雁部委員** いじめ110番などの部署を作り、保護者から直接、情報がはいつてくるような制度と学校からの情報と両方必要だと思います。
- **横井委員長** 多くの陰湿ないじめは学校にはわからないようにやっているの、学校が把握するのは難しい。その場合、学校が悪いということになってしまう。いじめられた子ども達が親や学校に言いにくい場合は、学校サポートチームがいじめ110番の役割を担い、具体的に子どもが動けると良いですね。
- **教育長** 親御さんが、直接、都教育委員会又は子どもや区長に相談を受けられるような一つのツールとして必要かと思ひます。今後、教育委員会としても対応を考えていく必要があると思ひます。
- **高木委員** 例へば、生徒が先生に言う。保護者を通じて言う。今の場合、窓口は全部学校なので、どうしても責任回避と言われてしまうのは仕方ないです。それに対して、別のルートからサポートチームを作ること、いろいろなルートが作れるといいですね。最後のまとめは教育委員会なので、情報を集め、いろいろな対応ができると思ひます。
- **横井委員長** 陰湿、悪質ないじめは絶対に許さないことを、いろいろな機会に発信する。ということですね。
- **横井委員長** 「学校と図書館との連携強化及び子ども読書活動の推進」の成果と課題についてですが、「墨田区図書館を使った調べる学習コンクール」では、小学校は非常に良い作品があったのですが、中学校は応募作品が少なかったようです。このことは、総合的な学習とつながりがあります。子ども達は教科以外は、興味・関心がない現われだと思ひます。学校教育担当の指導室も積極的に関わっていただきたいと思ひました。
- **横井委員長** 目標4の「広い視野と高い指導力をもつ区立学校教員を育成します」では、何かご意見はございせんか。
それでは、続いて施策の方向2「温かい家庭づくり・学びあえる地域づくりへの支援」の目標1「家庭教育を支援します」では、何かございせんか。
- **高木委員** 食育のことですが、梅若小学校で梅を取る、一寺小学校で寺島なすの復活を掲げて130周年記念のときは給食に収穫したなすを出しています。今年は二寺小学校が収穫しています。このような地域がらみのことが、平成24年度以降に書かれるといいかと思ひます。
- **鈴木委員** 愛媛県の今治が小学校4年生に10年後の今日の夕食を書かせるんですね。10年後は彼らは20歳になります。そうすると、マックとコーラが出てきます。今治の大学生が昨日食べたものを見て、小学生の子ども達はひどいと言う。いや、君もだよ。というところから、食育はスタートします。10時間のプログラムで地産地消で一汁三菜を作るというプログラムです。今まさに

高木先生がおっしゃるように、関係ありそうなものを使いながら、いろいろな教科と知識がはいつてくる総合学習でこのようなことができたらいいのではないのでしょうか。学務課と指導室ですね。

- **高木委員** 今年は二寺小と寺島中学が重点的になすを育てています。ところが、墨田区は土がないので、野菜を育てることは難しいです。寺島なすは、関東大震災で一度だめになりましたが、約90年後に復活しました。このような郷土史のように歴史的な話も子ども達に伝えることにより、関心がでてくると思います。
- **指導室長** 6月の食育フェスティバルの時には、一寺小の取り組みの紹介や、地域の方の説明もありました。
- **横井委員長** それでは、目標2「学校と地域を結ぶしくみをつくります」では、何か、ご意見はございませんか。
- **高木委員** 週5日制になり、その対応についてもう少し丁寧に書いたほうがいいのではないのでしょうか。土曜日をどうするかということが問題ですね。
- **生涯学習課長** 地域体験活動では、実行委員会形式で進めているので、地域の関係者と調整中です。
- **横井委員長** 次年度以降の土曜日は、隔週で月2回実施ということですか。
- **指導室長** 原則月2回実施ということです。
- **横井委員長** 月2回は地域で活動ということですね。地域と連携を深めるためにも中学生が小学生の面倒を見る機会を作る。これは、土曜日の特定な日時を決め、中学生が、活動する日とし、ある子どもは地域に貢献する。ある子どもは自分が得意なスポーツに活躍する。部活みたいなことをそのようなところで、実施するなどの状況がいろいろなところにあると思います。全体としてうまくできないかなと思います。それは、「少年団体等のリーダー育成」にもあるように、ジュニアリーダーを育成しているけれども、途中でやめてしまう、活動の場がないなどのことがあるので、生涯学習課、指導室、図書館等が関わって、連携していくといいと思います。
- **高木委員** 小学校と中学校は非常に違いがありますね。
- **横井委員長** 中学生時代の子ども達は、地域よりも自分たちの仲間に向く傾向になることは止むを得ないと思いますが、なにか位置づけられないかと思います。
- **高木委員** 先ほどの「幼小中一貫教育の推進」につながる話ですね。
- **教育長** ひとつの動機付けになりますね。
- **横井委員長** 「目標3 文化やスポーツなど地域での活動の機会を広げます」について、何か、ご意見はございませんか。
- **横井委員長** 今、中学校の人数が少ないところは、先生の数も少ないので、部活動を指導する先生もいなくなってしまう。もっと広域の部活にし、学校も地域も関わるような墨田区全体の中学生のための部活動として、運動が得意なお子さんは運動系に行き、子どもの面倒をみるお子さんなど図書館で本を読み研究を深める、などのことができないかと思います。今のシステムだと各課がそれぞれ独自に研究しています。もう少し広い視野で見ることがいい機会だと思います。
- **高木委員** 「フウガすみだ」を利用するお話がありますね。これはとても良いことだと思います。
- **横井委員長** 彼らはやる気が十分ありますね。
- **教育長** 「総合型地域スポーツクラブ」を活用する方法もあります。ひとつの学校だけでは取り組みのできないスポーツを横断的にやる方法もあります。
- **横井委員長** 隅田川のボートもありますね。「科学教室」も活動自体はマンネリ化しているので、も

っと新しい実施方法があるのではないかとともに思います。中学生としての部活動的なこともできるかとも思います。

- **高木委員** 「すみだ地域学セミナー」では、英語での地域学セミナーを開催することはとても意欲的です。その前に英語の地図を作成したり、テキストは英語で作るのですか。
- **生涯学習課長** 英語セミナーは今年度に初めて実施するものですが、外国人旅行者が増加し、外国人へもすみだの魅力を伝えられるよう、日本語で地域の学習をし、英語で伝えるといった内容を検討しています。テキストは、今回は講師が作成したものを使用します。
- **横井委員長** 今のお話はとてもいいと思いますので、英語活動の充実と連携がうまく取れるといいですね。
- **横井委員長** 「目標4 大学や図書館等多くの教育資源と連携し、学ぶ機会を広げます」については、何か、ご意見はございませんか。
- **鈴木委員** これは大学から学生が来るわけですが、例えば、スカイツリーの中のソラマチでは、千葉工大が福島原発で活躍をしたロボットを展示しています。この展示を見に行くとか、千葉工大に行きロボットの説明を受けることなどをしてという連携もあります。
- **高木委員** 千葉工大では、ロボット研究に力を入れ、宇宙ロボットも研究しているとのこと。いろいろな連携の仕方もあると思います。公立図書館と大学図書館は書籍構成がまったく違いますので、可能ならば、区民にもPRしたほうがいいですね。
- **横井委員長** 他にはよろしいでしょうか。以上で予定の報告事項は終了しました。これで教育委員会を閉会いたします。